

# 知床写真コンテスト 2017

## 受賞者発表

知床写真コンテスト 2017 に多くのご応募を頂きありがとうございました。  
厳選なる審査の結果、各賞が決定しましたので、ここに発表致します。

### <最優秀賞>

田村幸典「村護りの神」

### <生き物部門>

部門賞 三田崇博「見つめる先に」

入賞 江川 孝「夜明けの流氷」

入賞 早川徳幸「雪山とシャチ」

入賞 武田洋志「絆の確認」

### <自然・風景部門>

部門賞 千家丈人「岸壁の覗き窓」

入賞 内海大輔「Starry sky at Shiretoko Pass」

入賞 三田崇博「流氷ライトアップ」

入賞 粕谷 徹「月暈の夜」

入賞 川崎幸廣「望郷の朝陽」

### <スナップ部門>

部門賞 今井久美子「夕焼 絶景！」

入賞 土屋幸子「夏の風物詩」

入賞 黒田貴司「最後の挑戦」

入賞 今井久美子「知床五湖春到来」

入賞 今井欣一「感迎！観光船」

知床羅臼町観光協会

# 審査員講評

## 【全体をとおして】

応募総数 160 点

### （生き物部門 160 点、自然・風景部門 47 点、スナップ部門 22 点）

今年度の出品作品の多くは、構図が考えられている作品が多かった。非常によく計算されていた。作品を作るという意図が見える。最優秀賞の作品は、暗い中での構図とシマフクロウのポーズ。野生動物は、厳しい自然の中で縦でとっている。優しい目、折れた角、頭にのった雪。厳しい中にカメラマンの優しさを感じる。

出品作品が多くなり、生き物部門は羅臼町内で撮影された作品が多かったが、自然・風景部門、スナップ部門では斜里町内で撮影された作品が多くなってきている。

今後、スナップ部門に関しては、プロっぽい写真ではなくて、本当のスナップ写真が増えることに期待したい。スナップ写真の中に、上手に人を入れてとってほしいです。

また、知床に来てあまり力まずに身近な物に力を入れて写真を撮っていただきたいです。受賞されなかった多くの出品作品の中にも、こんな瞬間をとっているんだな。という瞬間に巡り合っている人が多くおりました。

来年度の写真コンテストも期待しています。

### 【最優秀賞】 田村幸典「村護りの神」

シマフクロウの羽の形が非常に面白い。体をひねっているのですが、目はまっすぐに前をむいている。構図がとてもよく、フォーカスもシマフクロウの目にきている！

ここ数年の生き物部門の出品作品としては、とてもシャープさがある。

今年度の写真コンテストは出品作品点数が多く（160 点）、最優秀賞を選ぶのに苦労しました。シマフクロウが暗闇の中からでてくる力強さがとても良いです。

### 【生き物部門賞】 三田崇博「見つめる先に」

おとなしそうな鹿で表情的には変わった表情はしていないが、写真から知床の冬の厳しさが感じとられ、頭の上に雪が積もった良い瞬間にシャッターをおしている点がよい。鹿のまつげや毛の 1 本 1 本まで、しっかりと映っています。冬の厳しさをしっかりと感じられる作品です。

見つめる先にこれから何を食べたらよいのか？という感じが伝わってくる。警戒しながら近づいてきたと出展者コメントではありましたが、あまり警戒していないかもしれませんね。優しい感じを感じる良い作品です。

### 【自然・風景部門賞】 千家丈人「岸壁の覗き窓」

岩をうまく利用して構図が非常によい。船と夕焼けの焼け具合がとても美しい。何も欠点がない良い作品です。

なかなか思い浮かばない切り取り方。大変整理して撮影されている。灯台、夕景でしばらくこんで、観光船の窓をとおして向こうがみえる贅沢な写真です

### 【スナップ部門賞】 今井久美子「夕焼 絶景！」

昨年までは羅臼町内だけに撮影ポイントを絞って作品を募集していましたが、今年からは斜里町も含めて作品を募集しました。今年度の出品作品の中にはたくさんの斜里町で撮影された写真が増えてきました。流氷がたくさん接岸したときに、奥行き深く流氷があって、

時間的にも夕景の時間を上手に選んで、うまく作品にしていると思います。  
構図はきちっと考えられている。スナップ写真を取ろうという意識があるので、人を風景の中にきちんといれて作品が作られている観点がとても素晴らしいです。今年は流水が大変多かった。夕陽の落ちる色と氷の解けた色、さらに、夕陽をとろうとしている人をとっている点が素晴らしいです。

審査員

審査委員長 石井英二

副審査委員長 関 勝則